

GK情報レポート

【2007年発行】

vol. 12

春号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

神奈川県相模原市宮下1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents

1. ホームページ紹介
2. 型打鍛造紹介
3. 新宿メガキャンペーン企業PR
4. GK沿革（第10回）『第2代社長・権田忠志』時代
5. GKギャラリー：新入社員紹介
6. 相場情報『2007年・2・四半期見通し』

皆様でご回覧下さい。

回覧印										
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～11）をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

1. ホームページ紹介

権田金属工業ではホームページを開設しております。

このホームページでは会社概要や会社理念の他、製品・技術・設備の紹介等を掲載しています。

また最新情報も掲載しており、権田金属工業にとって何かニュースが有った場合総務部の担当者が随時更新しています。

従来であれば、営業マンが訪問したり電話で新しいお客様との接点を築いて来ましたが最近では「インターネットのホームページを見た」と言って電話やメールでお問い合わせを頂戴する事も増えて来ました。

大手重電メーカー様向けの銅型打鍛造のお引き合いをホームページをご覧になった商社から頂戴し現在では試作品の製造を完了しました。

また関西の大手の伸銅品問屋様からは、無酸素銅棒のお引き合いを頂き、現在見積り中の段階です。

この様にホームページは新しいお客様との出会いの手段として欠かせない存在になってきています。

また当社に就職希望の大学生や高等専門学校生、高校生もホームページを参考にして興味を持った方は問い合わせをしてくれています。

従来からお取り引き頂いているお客様からも当社のホームページをご覧になって「色々な事をやっているんだね」「こんな物作れる？」等というお話を頂く機会が多くなって来ました。

当社としては、皆様にホームページをご覧頂き新しいお客様、新しい製品のお取り引きのキッカケの一つになれば良いと思っております。

今後も皆様に頻繁にご覧頂けるホームページを作成して参りますので、まだ権田金属工業のホームページをご覧になった事がない方も是非一度ご覧下さい (<http://www.gondametal.co.jp>)。

また何かお気づきの点があれば、当社営業部までご一報頂けると幸いです。(記者 日吉)



2. 型打鍛造の紹介

* 型打鍛造品のお引合いが増加

銅地金をはじめとする金属材料費の高騰による《コスト見直し》や需要家様の開発のご要求で型打鍛造品、型打鍛造～機械加工品のお引合いが増えています。

1、型打鍛造品の一般的特徴

冷間鍛造は高精度成型に、熱間鍛造は複雑な形状の成型に向きます。

- ① 型打鍛造は、より仕上り寸法に近い形状を作ります。
- ② 量産物でのコストメリット効果は、機械加工に差をつけます。
- ③ 目的に応じて鍛造方法を選択できます。

熱間鍛造で大型部品、温間鍛造で中型部品、冷間鍛造で高精度部品

- ④ 冷間加工で表面硬度を増加する事ができます。

2、権田金属の型打鍛造品の特徴

- ① 材料メーカーなので材料費が安く製作できます。

材料調達～鍛造～機械加工～納品と一連の対応ができます。

- ② 自社で鍛造図面及び金型の設計ができます。

そして当社の担当技術者が開発、製作のパートナーとして協力いたします。

- ③ 鍛造設備が各種揃っていますので、熱間と冷間の組合せができます。

小型製品から大型製品まで対応することができます。

- ④ 当社の鍛造技術を活かして、大手需要家に実績があります。

3、権田金属の二次加工

需要家様からは単に鍛造品の製作だけでなく、メッキ仕上げまで含めた部品で納入して欲しいとのご要求が増えてきています。

そこで当社ではさまざまな加工業者と協力できるルートの構築に力を入れ、鍛造後の機械加工だけでなく、銅の加工品で必要な事が多い真空銀ロウ付けやメッキ等の二次加工、三次加工も自社及び協力会社で対応できるようになりました。

例として 『高性能アルミハニカムフランジ』の納入実績等

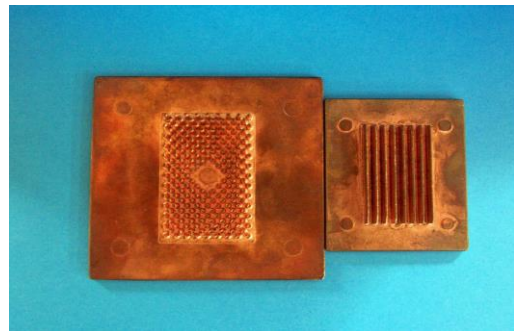
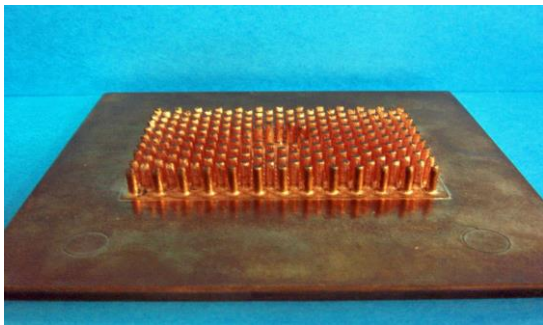
4、権田金属の営業対応部門

当社では型打鍛造、機械加工等 加工品の拡販に力を入れています。

06年4月に営業部とは別に、加工品の拡販を担当する『営業開発部』を創設しました。

営業開発部は需要家様の製品開発～製作にと当社の窓口として、細かなご協力をさせていただいています。

- 5、 権田金属の最新の型打鍛造技術の例
細かなフィンやピンを型打鍛造で製作しました。

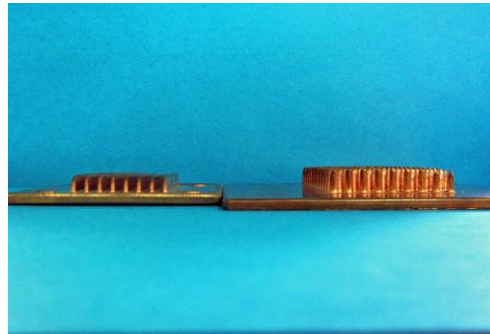
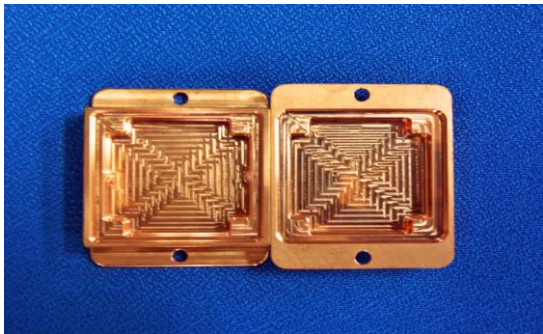


材質:C1020

板の厚さ 約 3mm、ピンの高さは約 8mm です。

整列したピンの製作で、プレスをする際の鍛造圧力に苦労しました。

- 6、 ヒートシンクのお引合いも増加
パソコンの容量が拡大され、それに伴う半導体の集積率が向上され、熱放出の機能を高めるご要求が増加しています。
そのためパソコン内部に組み込まれるヒートシンク(熱交換器)を熱伝導率の高い銅を材料とした型打鍛造や機械加工で製作したいというご要望が、増加しています。
当社での試作品を紹介します。



2ヶの部品を上下に組み合わせて、1ヶのヒートシンク(熱交換器)となります。
型打鍛造と機械加工を組み合わせて、製作しました。

当社で製造している丸棒だけでなく、板形状の製品を購入し材料として型打鍛造、機械加工もできます。

問合せは、権田金属工業株式会社 営業開発部 営業開発部長 高安へ
電話 042-700-0221 ファックス 042-700-0660

(記者 吉田)

3. 新宿メガキャンペーン企業 PR

GK 権田金属工業株式会社

会社概要 〒209-1112 神奈川県相模原市西下1-1-16
TEL 042-700-0250 http://www.gondametal.co.jp
資本金6,000万円、従業員数90名

銅、異形丸棒(写真は異形丸棒)

マグネシウムの注線、研磨板

マグネシウムの型鍛造品、カップ(AZ91)

当社では、重電機械・配電盤に用いられる大型鍛造品を主に製造し、また近年では素材だけでなく、鋼・黄銅・ステンレス・アルミを使った加工品の製造も手がけております。

業界内外から熱い注目を浴びるマグネシウムの双ロール鋳造技術を確認しました。

当社は、大正7年の創業以来、機械部品用伸銅品、電気用伸銅品等を生産し、88年の歴史を経るに至りました。この間、研究開発に力を入れ、他社では出来ない様な製品を数多く手がけて参りました。マグネシウムに関しましては、双ロール連続鋳造による薄板製造法(H15年12月に特許取得)を進めておりましたが、量産工場が完成し、現在量産試作中です。

- インベスト神奈川(施設整備助成制度)の認定を受けました。
平成17年10月24日付(産活企第21号)
- さがみはら産業集積促進条例(STEP50)の認定を受けました。
平成17年11月7日付

相模原市西下1-1-16 権田金属工業株式会社

2007年3月11日、旧津久井郡4町との大合併により人口70万人の新相模原市が誕生。新相模原市の魅力を広く全国へPRするため新宿駅西口地下通路に3月23日(金)から25日(日)の3日間、大規模キャンペーンが行われ、当社も企業PRコーナーに出展しました。当日は、著名人のトークショーやライブステージ、観光スポット等の紹介が行われ大勢の人が来場されました。当社の展示ブースにも多くの方々が見えられ、用意したパンフレットも全てお持ち帰りになりました。(記者 日吉)

4. GK 沿革 (第10回) 『第2代社長・権田忠志』時代

横浜駅西口の開発で移転先を探す(昭和27年から)

昭和27年から28年にかけての不況は一転し、昭和29年から30年にかけては好況に恵まれました。この頃、権田金属工業(株)は改めて新たな課題を抱える事になりました。昭和27年ごろから相模鉄道が始めた、横浜駅西口の開発で、百貨店の高島屋の第1期工事が完成した昭和30年を期に、周辺の開発が一気に進み、工場のある南幸町も工場の適地ではなくなりました。このため、南幸町西方に5000坪以上の土地を物色することになりました。

最初は昭和31年に相鉄沿線の西谷の北側5000坪に白羽の矢を立て手付金10%を支払いました。ところが、横浜市から該当地はグリーンベルト地帯なので工場立地はできないと言われました。そこで、横浜市に土地の斡旋を要請しました。

その結果紹介されたのが第二の土地、鶴見川の上流でした。ところが、昭和32年のキティ台風で関東地区の河川が氾濫、鶴見川も水があふれて、契約した該当地がどこだか判別できない状態になりました。

神奈川県に将来の堤防計画を聞いたところ、計画には購入予定地の三分の一が取られてしまう事が判明、この土地の取得を諦め、地耐力測定料 20 万円の支払いを横浜市から受け取るというひと幕もありました。

二度まで失敗した反省から、次に目をつけたのが相模原市でした。相模原市は昭和 33 年に制定された首都圏整備法に基づき、工場の開発第 1 号に指定され工場誘致を進めていきました。
(創立 80 周年記念誌「あゆみ」より)

5. GK ギャラリー：新入社員紹介

《 2007 年度新入社員入社式 》

2007 年 4 月 7 日 8 時 30 分より、当社会議室にて新入社員の入社式を開催いたしました。今年の新入社員は、大学、高校卒業の男性で五名です。

入社式当日より社会人としての研修課程に入り、その後各製造セクション、営業部、品質管理課、技術課での実習課程に入ります。

研修、実習課程終了後、五名の新入社員は、製造部の各セクションに配属されます。

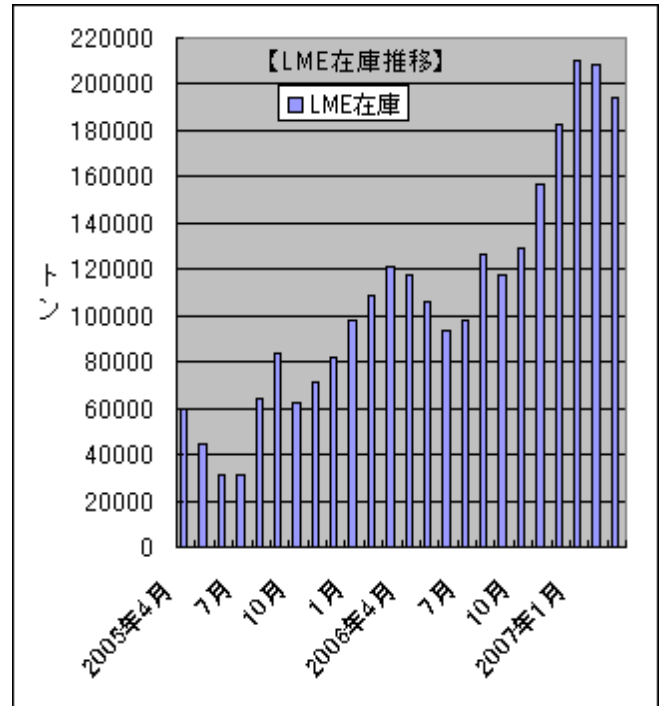
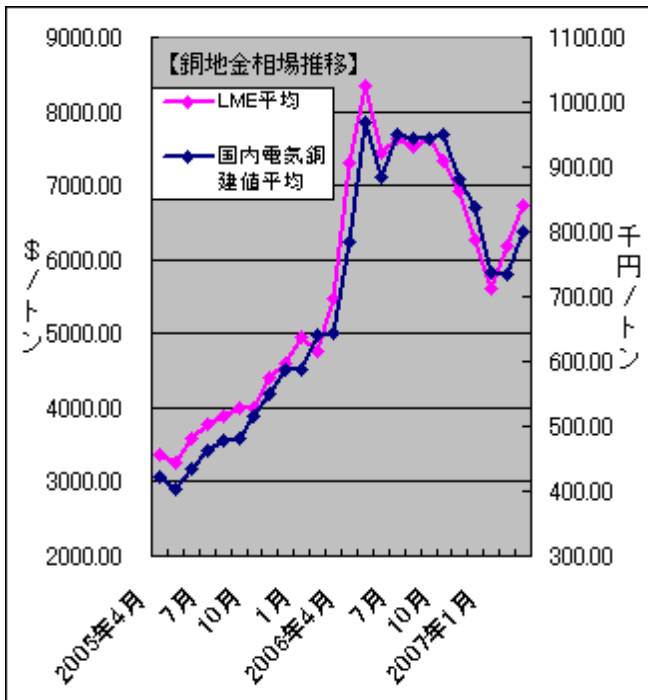
入社式では社会人への門出の式典に緊張の面持ちでしたが、当日夕刻より開催されました歓迎会兼花見のバーベキューパーティー（生憎の雨で従業員食堂にて）では緊張感も少しは解れてきた様子でした。



当社の若い新戦力の成長にご期待ください。

(記者 吉田)

6. 相場情報…2007年・第2四半期見通し



1、電気銅 2007年第1・四半期推移

- 1月・・・750円スタート・1月平均738.4円
- 2月・・・740円スタート・2月平均733.1円
- 3月・・・760円スタート・3月平均800.0円
- 4月・・・840円スタート

2、LME在庫と需給

LME指定倉庫の在庫量は2006年12月から入荷が増え2007年1月末には20万トン超えとなり、2006年始めの2倍となっている。この3年間の推移を見ると、2004年4月約15万トンから減り続けた在庫は2005年7月に一時2.5万トンとなった。その後徐々に増え始め、2006年始めに8万トンその後、在庫は増加傾向に向かい2006年12月には18.2万トンになった。2007年第1・四半期は18万トンから21万トンの間を上下している。LME在庫が増えたといっても2007年世界の銅の需要量予測は約1,800万トンでありその需要量から見ると現在の在庫量は低水準である。

3、為替見通し

第1四半期は為替が乱高下し115円～123円であるがこのところ円高傾向にきている。米国経済の景気が底堅い事、2007年1月、2月頃には円キャリートレードの解消がさかんに行われていることなどが背景にあるようである。今後の見通しとして米国の経済も底堅い事から、現在の為替水準で推移すると思われる。

4、相場の見通しと予測

非鉄金属相場は1、2月には総じて弱基調であったが、その後反発して全般的に上昇している。非鉄相場にも影響を与える原油についても現在63ドルぐらいを推移して堅調である。マーケットは、実需要とファンド資金の流れから相場の変動は大きくなっている。

第1四半期の銅相場は、安値5,225ドル・高値6,860ドルとなり、3月末は6,715ドルであった。中国、インドなど需要が旺盛な事、LME在庫水準が低い事から一時の下げ予想は後退し、高値圏で推移するものと思われる。

第2四半期についても銅相場はファンドが、介入する余地が充分にある。実需要に対する供給からLMEでの買いのタイミング、それに対するファンドの売りのタイミングが複雑に交差して推移するものと思われる。

短期予測 (1M) : LME \$6,500～8,000 為替 115～120円 銅建値 790～1,000円

長期予測 (3M) : LME \$6,000～8,200 為替 115～120円 銅建値 720～1,020円

(記者・高安)